



土浦全国花火競技大会

会長 溝口 隆一 幹事 福田 昭一

- 例会場 ホテルマロウド筑波  
TEL.029-822-3000
- 例会日時 火曜日 12:30～13:30
- 事務局 土浦市真鍋1-2-6 金塚ビル3F  
TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
- ホームページ <http://tsuchiura-src.jp>
- Eメール [info@tsuchiura-src.jp](mailto:info@tsuchiura-src.jp)

2017～2018年度  
国際ロータリーテーマ



ロータリー：  
変化をもたらす

2017年10月17日 13号  
2017年10月3日 第1例会報告



地区HP



地区行事予定

- |                                  |      |                            |               |
|----------------------------------|------|----------------------------|---------------|
| 1. 点 鐘                           | 溝口会長 | 8. 委員会報告                   |               |
| 2. 国歌斉唱<br>(君が代)                 |      | 9. ニコニコボックス発表              | 阿部副SAA        |
| 3. ロータリーソング斉唱<br>(奉仕の理想)         |      | 10. 出席状況報告                 | 出席委員会         |
| 4. 米山記念奨学生紹介及び奨学金授与<br>王 翰さん     | 溝口会長 | 11. 卓 話<br>米山月間に因んで        | 米山記念奨学生 王 翰さん |
| 5. 会長挨拶                          | 溝口会長 | 12. 点 鐘                    | 溝口会長          |
| 6. 幹事報告                          | 福田幹事 | 13. ロータリーソング斉唱<br>(4つのテスト) |               |
| 7. 今月お誕生日の会員並びに配偶者の紹介<br>親睦活動委員会 |      |                            | (司会進行 高野SAA)  |

### 本日のプログラム

日本ボーイスカウト茨城県連盟 第5地区協議会  
会長 菅原英幸様によります来賓卓話でございます。

### 次週のプログラム

10月24日(火)は、警視 土浦警察署 署長 鷹巣正  
則様によります来賓卓話でございます。

## 出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	3名以上欠席卓	メイクアップ	出席訂正率
名	名	名	%	卓	卓	名	%
92	73	6	82.02	6	5・8・9	12	95.51

## 【会長挨拶】

溝 口 隆 一 会長



皆さんこんにちは。

10月に入りました。先週の保延ガバナー公式訪問は皆様のご協力の下に無事終了いたしました。26日の例会出席率は95%、この数字を見ても会員全員で歓迎した素晴らしい公式訪問でありました。本当にありがとうございました。

さて10月は、「米山月間」です。米山記念奨学会も今年で50周年を迎えます。

1952年、東京ロータリークラブが奨学事業の構想を立案、翌年1953年に「米山基金」の募金を開始しました。ここが原点であります。

29日～30日、優良事業所訪問を兼ね米山梅吉記念館に行って参ります。まだ参加申し込み可能ですので考慮中の方は是非ご参加下さい。

10月21日(土)は、地区親善野球大会が石岡で行われます。塚原監督率いる南軍団が力を発揮し地区優勝をするであろうと勝手に妄想しておりますが、参加される皆さんには出来るだけ頑張ってもらいたいと思います。

22日(日)には、入会3年未満会員向けのオリエンテーションがあります。現在1名の参加となっております。対象者の皆さん、是非奮ってご参加下さい。

10月7日(土)は、第86回土浦全国花火競技大会です。ワースト茨城のトップイベントの一つでしょう。心から成功を祈ります。

私の家が程々近いところにあります。どうかご遠慮なくお越し下さい。飲食自由、バス・トイレ・駐車場付き、全て無料であります。お出で頂く際の手土産等はお断りしております。

米山記念館見学、3年未満オリエンテーション、地区野球大会への参加を重ねてお願い致します。10月の挨拶と致します。

## 【委員会報告】

### 青少年奉仕委員会

楠 英 夫 委員長

10/8、土浦花火大会翌日に会場周辺の清掃活動を致します。朝6時から7時の予定です。東風高校インターアクトクラブからは4名参加します。ご協力頂ける方は宜しくお願い致します。

### 米山記念奨学委員会

江ヶ崎 實 委員

“ロータリーの友”10月号に記事がありますように、今月は米山月間でございます。特別寄付の目標は一人2万円になります。是非目標額以上の寄付を宜しくお願い致します。

### ゴルフ同好会

金 山 勲 生 幹事

次回、土浦南RC同好会コンペを12月6日(水)に行います。筑波東急GCにて開催いたします。奮ってのご参加を宜しくお願い致します。

## 雑誌委員会

鈴木 昇 副委員長

“ロータリーの友” 10月号、7ページから米山月間の特集記事があります。今月のお薦め記事は「SPEECH」の難民問題です。是非お読み下さい。

## 土浦ユネスコ協会

稲本 修一 会員

10月21日(土) 地区親善野球大会と重なりますが、「平和のとりでを築こう」親子の集いがつくば国際大学にて参加費無料で開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

## 【卓 話】

米山記念奨学生 王 翰 さん



こんにちは、2820地区土浦南ロータリークラブに所属している流通経済大学の王 翰（オウ カン）と申します。いつも大変お世話になっております。

これまで6ヶ月の奨学生生活の中で、大変楽しい時間を過ごしました。米山記念奨学会が主催した様々な研修活動を通じて、人々がお互いに支えてから、私たち今暮らしている平和、幸せな社会に成り立つそういう精神を実感させていただきました。米山梅吉さんは自分の力を尽くし、国際交流を促進してきました。先人の志を受け継ぎ、大学4年生の私もこれから助け合いの精神を心に銘記し、平和な世界を作るために力を貢献し、小さなことから国際交流や社会の奉仕活動に続けて頑張っていきます。今回の卓話では、私はこれまでの留學生活の経験と得たものをクラブのみなさんに報告したいと思います。

私は今までずっと学生でしたので、仕事での試練を経験したことはありませんでした。しかし、同年齢の学生に比べて、生活で克服してきた試練が多かったかもしれません。シンガポールと日本での留學生活でそれぞれ違う言語を駆使した留學経験が、まさに喜びと悲しみに満ちたチャレンジングな日々でした。2011年に中国国内の大学に在籍した私は、よりグローバルな知識を身に付けるために、中国の大学を休学し、シンガポールに国際会計を学びに1年間留學していきました。その留學が終えた頃、帰国して復学するか、それとも退学して新たな留學の道を踏み出すか、その決断とそこからの2年間、私は今までの人生で最も大きな試練をこなしてきました。

2009年、私は中国の中央財経大学の会計学部に入學して、財務管理を専攻し、銀行への就職を目指していました。当時、海外経験のあるグローバル人材が非常に評価される時代であったので、在学中、シンガポールで国際会計を学ぶ機会に出会い、思い切って休学して留學に出かけました。しかし、1年間の留學が終えた頃、帰国するかどうかについて、大きく迷いました。当時、米国発の金融危機の影響で、投資主導と輸出依存の中国の経済が大きく揺れ、政府の4兆元のインフラ投資で国営企業は救われたが、多くの中小民営企業は融資できずに倒産しまいました。その背景の中で、中国の銀行に不信感を思い、金融知識より実務をさらに学びたくなり、結局、中国への復学を断念して、日本への更なる留學を決断しました。その時から、中国の雇

用を支える中小民営企業に役に立つ人間になりたくて、リーマン・ショック後にヨーロッパで現れた中小製造企業向けの SCF（サプライチェーン・ファイナンス）サービスに多大な関心を持つようになりました。

SCF システムの導入により、企業の買掛金と売掛金の資金循環を向上させ、中小民営企業のキャッシュフロー負担や経営リスクを減らすことができます。自分は金融の基礎を学んだので、日本でさらに SCM（サプライチェーン・マネジメント）を学ぶことにしました。中国側では、不動産バブルや過剰投資など、中国経済の製造業かい離への批判が高まっているなか、SCF は明らかに今後の中国経済に寄与していけると確信できます。

そこで、今後 SCF の仕事で生かせる専門知識とグローバルな視野をさらに身につけるため、中国の大学を退学して、日本への新たな留学の道を選びました。当時、日本では、G30 による英語コースが各大学で新設され、自分が英語に十分な自信があり、日本に来たら、自分の目指す最先端な SCM と物流知識を英語で習得できると思いましたが、現実はそう甘くないでした。当初、とりあえず日本へ渡航し、日本語学校を通して、日本での生活をこなすための日本語を覚えて、英語で好きな大学に行けると安易に思っていました。しかし、日本語学校の進学指導の先生に従って詳細を調べたら、さまざまな英語コースがあるものの、SCM のコースがなかったことに気付きました。英語で進学できるコースに行くなら、自分の本来の留学の趣旨と違うので、中国人は漢字もできるし、日本語を早く学んだら日本語で進学しようと、日本で一回目のかじをきることにしました。しかし、受験し始めると、言葉の壁が予想をはるかに超えるほど困難でした。多くの有名大学の国際経営学科の受験に失敗し、幸い専門性の高い流通経済大学の流通情報学部での SCM 専攻に入学できました。

はじめて、日本の大学で授業を受けたとき、かなり苦労しました。日本語能力試験の勉強と日本語で授業をついていくことが全く違い、大学1年生のときは、結局授業内容を十分に理解できませんでした。日本語能力を向上させるために、原点に戻し、聴解、読解、文法と日本語会話の練習を重ねて、間違った点をノートにまとめ、繰り返し練習してきました。一番難しかったのは、聞き取りとプレゼンテーションでした。語学学校の外国人向けの日本語と違って、日本人の教員と学生と、はじめて長い授業内容を聞いたとき、かなり難しいでした。いくら集中しても、なかなか会話の全体の内容を聞き取れなくて、教授の話の主旨すら把握することができませんでした。この困難を乗り越えるために、もう一回日本語聴解の練習用 CD と会話テキストを探し出し、一生懸命勉強してきました。聴解用 CD を聞きながら、紙に会話の内容を起こし、書けないところを原稿と照らし合わせて、間違いは自分で直すという地味な方法を用いました。そして、授業で配られた資料やプリントを用いて、知らなかった漢字の読み方や文法の意味を辞書で詳しく調べて、段落の余白に小さな字で注釈を書き込んで、大きな声で文章を読む練習を行いました。はじめてこの方法で練習したときは、文章の中で知らなかった表現は数多くあるので、すんなり読めるようになるために、大変苦労しました。また、専門分野に関連する知識をよく理解するために、授業が終わった後、図書館で辞書と参考文献を利用しながら学習し、疑問をメモに残して、先生の指導を求めました。

しかし、いくら机上の勉強を努力しても、授業中の会話や討論にはやはりなかなかついていけません。そこで、龍ヶ崎市内のホテルと冷凍食品工場でのバイト先の休憩室でも録音した授業の要点と問題点を整理し、出会ったすべての日本人に一生懸命に日本語で話をかけ、うるさいほど練習してきました。応援してくれたバイト先の同僚のおかげで、日本語がだんだんと聞

き取れるように、そして、話せるようになってきました。毎日40分ぐらい時間をかけて自転車を乗って大学とつくば工業団地にあるバイト先に往復し、アルバイトを頑張っけて堅持してきました。ホテルや工場での現場の仕事を通じて、日本語能力の向上と生活費稼ぎの両立だけではなく、精神力を鍛え、人間的にも大きく成長してきました。

努力の甲斐があって、4年間でGPA評価は3.6に達し、流通経済大学奨学金、文部科学省外国人留学生学習奨励費、国際ロータリー米山記念奨学金を受賞しました。日本語で授業をついていき、議論したり、プレゼンしたりする力も身に付けてきました。今、日本語で卒論を執筆しているに至りました。

このように、日本留学の最初の二年間を振り返ってみれば、一連の情報判断のミス・進学準備の不備・言語習得の不足・自立生活の奮闘など、多大な試練に直面してきました。幸い、多くの方からのご支援をいただき、私の学習生活を支えてくれて、試練を克服してき、また、たくさんの方の失敗から様々な貴重な経験を学びました。例えば：ただ行動力を重視することではなく、もっとシンキングに時間を割いて、慎重に対応するかと思います。当時、シンガポールの留学は日本と全く違うことを気付かず、また、日本へ渡航する前に、日本の大学の英語コースの情報や、授業の種類や入試要求などについても、丁寧に調べなかった。これは、言うまでもなく、シンガポールに留学していた時、物事をロジカルに考える力を揃えてなかったからです。今なら、主観的な考えや偏った情報で自分の行動を決めるのではなく、さまざまな情報を収集して自分の考えを裏付けてから判断します。

また、語学についても、言葉の壁を乗り越えるために、単語と文法などの基礎知識をしっかり学び、大学の部活と地域が主催した経済、文化の交流会などにもっと早くから積極的に参加し、自ら日本語を練習する機会を増やしていきたいと思います。

現在、大学4年生の私はこれから新しい挑戦を立ち向かっていきます。大学卒業後、体系的かつ実践的な知識をさらに学ぶために、大学院へ進学したいと思います。今、大学院の入学試験に一生懸命準備しています。はじめて大学院へ出願する私はかなり不安でした。いつも大変お世話してくれる内田カウンセラーは私を大学院の入試に関する情報をできるだけ多く収集させるために、大変忙しいところに、食事会を作って大学院から卒業した奨学生の先輩たちを招いて、入試のことや大学院の学習生活にずっと悩んでいる私に指導しました。それだけではなく、世話クラブから、大学院へ出願に必要な推薦書も発行していただきました。皆の力を合わせて作ってきた推薦書に書いた文章から、寄せた暖かい期待を実感してかなり感動しました。

これまでの留学生生活を振り返ってみれば、学習生活にある挑戦を乗り越えた様々な経験は、必ず私の人生の宝物になります。2017年4月から1年間の奨学生の生活は、あと僅か6月しか残らないです。社会に役に立つ人材になるために、これからもクラブの皆さんと一緒に過ごす貴重な時間を大切しながら、皆の希望を背負って一生懸命努力していきたいと思います。

以上です。

ご清聴ありがとうございました。